



THE KAHALA

HOTEL & RESORT
YOKOHAMA

第3回

ハワイを継承しつつ、さらなる高みへ。 新たに日本に芽吹く「ザ・カハラ」の魂とは

2020年6月、初の海外進出を果たす「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」。
新天地では、これまでになかった新たな「スピリット・オブ・カハラ」を提唱します。

オアフ島カハラに創業して以来55年、今やハワイのラグジュアリーホテルを代表する存在となった「ザ・カハラ」。これまで、2回にわたってこのホテルがいかに地元と親密な関係を築いてきたか、世界中のセレブリティに支持されるに至ったかについてお伝えしてきた。そんな「ザ・カハラ」が2020年6月、2つめの拠点を横浜に誕生させる。同ホテル史上、初の海外進出。その舞台が、オリンピック目前の興奮に沸く横浜だということで、多くの人々は「ハマの地にどんなハワイアンラグジュアリーホテルが？」という思いを抱いているかもしれない。しかし、ここではっきりさせておかなければならないことがある。間もなく横浜に誕生する「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」は、ハワイアンテイストを謳うものではない。正しく言えば、「ハワイで生まれた『ザ・カハラ』の財産とも言うべきアロハ・スピリットをベースに、新たに横浜の色に染め直したアーバンラグジュアリーホテル」だ。到着したゲストに花のレイをかけてくれたり、プライベートビーチでカクテル片手に読書にふけりつつのんびり日焼けしたり、といった楽しみの代わりに用意されているのは、「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」でしか味わえない、いつまでも記憶に残る感動体験。あくまでも横浜流だ。訪れるゲストには、これまで体験したことがない

ような上品で快適な時間が約束され、その心地良さを味わううちに、ハワイの「ザ・カハラ」を訪れたことがある人であればふと、「あ、この温かさは確かに、ハワイの『ザ・カハラ』と共通するものだ」ということに気づくのではないだろうか。「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」でディレクター オブ コンシェルジュの重責を担う阿部泰年が、現在の心意気を打ち明けてくれた。「元町に生まれ育ち、コンシェルジュのキャリア



上 みなとみらいの街。2020年で一つの完結の時を迎える。下 1859年、横浜開港直後に誕生して以来、人々に愛され続ける中華街。

は横浜にあるホテルのドアマンとしてスタートしました。その後、世界中のホテル評論家やゲストから“最高級”と称される様々なホテルで、真のサービスとは何かを問い続けてきました。そんな私がこのたび、『横浜にこれまで存在しなかったものを創り上げる』という理念に共感し、このホテルで新しい時代を迎えることになったのです。ここに私は、偶然ではなく必然性を感じています」阿部が言うとおおり、「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」は2020年6月に横浜にオープンするが、実は立地エリアの「みなとみらい」は1983年に町づくりがスタートした国内屈指の計画都市。元は造船所や旧国鉄の操車場があった場所で、それまでの横浜は伊勢佐木町とこのエリアで大きく分かたれていた。それをひとつにまとめ、未来を見据えて、人々や企業が集まり自然と社会が共存できるような町へと変えようと始まった巨大な都市計画が「みなとみらい」なのだ。すでに「横浜ランドマークタワー」「横浜赤レンガ倉庫」「パシフィコ横浜」など、周知の存在となったスポットはたくさんあるが、一方では現在も多くの建築計画が進行中。しかし2020年のオリンピックイヤーをもって、ある意味、ひとつの結実の時を迎える「みなとみらい」。そんな時期に満を持して歴史がスタートするのが「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」だ。この瞬間に、故郷横浜のために何か恩返しをしたいとこのポジションに就いた阿部の気持

**「みなとみらい」結実の時に
 産声をあげる宿命を感じて**

ちが、前述の「必然」という言葉に表れている。阿部はコンシェルジュ職のディレクターとして、「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」のサービスのベクトルをどこにもっていくかを司る役を担う。「真に価値のある最高級のサービスとは、お客様がサービスされたことにも気づかないくらいのコンフォータブルでさりげないものである」という信条を持ち、それらを自分だけでなく周りのサービススタッフ全員が共通認識した上で展開できるように努める一方で、もうひとつ、大変重要な任務を担うことになった。「ザ・カハラ エクスペリエンス」プロジェクトのリーダーだ。ここで再び、ハワイの「ザ・カハラ」について触れたいと思う。1964年に創業し「ハワイアンラグジュアリー」の名を確固たるものにしたカハラブランドが今、横浜で何を伝えたいと願うのか。そこにあるのは「単なる宿泊を超える、最高の時間を届けたい」というブランドの思い。さらに、ホテルはその地にただ存在すれば良いというものではなく、「現地の人々の生活、文化、習慣を尊重する心」を携えて土地と共栄していくべき、というのも同ブランドの哲学だ。この「スピリット・オブ・カハラ」を横浜でもホテル宿泊者、ひいては横浜の人々に伝えたいがために、「ザ・カハラ エクスペリエンス」プロジェクトはスタートする。「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」の宿泊者には、ホテル側がゲストのためのみに創り上げた



老舗「大倉陶園」、江戸創業の料亭「田中家」、世界的な書道家、末廣博子氏の書道体験など「ザ・カハラ エクスペリエンス」に乞うご期待。

アクティビティプログラムが用意されている。観光ガイドには掲載されないオリジナルで、書道アート体験や、横浜が誇る磁器ブランド「大倉陶園」の体験ツアー、横浜の老舗料亭「田中家」で、粋な芸者衆によるおもてなし体験など、バラエティに富む。一方では「カハラブランド」という「新参者」と歴史ある街・横浜が手を取り合い、新しい旅のスタイルを探るチャレンジングな試みでもある。

また、「ザ・カハラ エクスペリエンス」よりもさらにカジュアルに「スピリット・オブ・カハラ」を味わえる体験もある。それが「The Kahala Initiative for Sustainability, Culture, and the Arts」、通称「KISCA（キスカ）」だ。本国「ザ・カハラ」で2017年に始まったプログラムで、宿泊者が気軽に数ドルからの寄付を行うことで、ホテルが代わってそれらをハワイの植樹に役立てるという、自然のための一大プロジェクト。開始後2年で寄付総額は47万ドルに及び、結果6000本を超える苗木が植えられ、育ちつつある。この「KISCA」を「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」にどう根付かせるか、現在多くのスタッフが試行錯誤している。「宿泊販売ももちろん大切なこと

でありながら、横浜流のKISCAをどのように展開するかというのは、ホテルのあり方そのものを示している」という共通認識のもとに。

そもそも、自然ジャンルのみではなく、地域や文化、人々の生活にどう貢献していけるかという精神を意味するのが「スピリット・オブ・カハラ」。

**ホテルの商品は部屋ではなく
温かさが伝わるもてなしの心**

なので、ハワイと同様にすれば良いということではなく、ホテルが何をすれば、横浜のためになり、お客様

にもご満足いただけるかが指標なのだという。横浜でのKISCAがカバーするジャンルは幅広く、芸術、スポーツ、文化、自然、歴史など、開業時には約50のメニューが準備される予定だという。豪華な設備が目される「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」だが、その裏には新事業に賭けるスタッフ達の熱い思いや令和の時代を代表するに足る「リージョナルホテル」としての矜持があることを、ぜひ肌で感じていただけたらと思う。

○山口 繭子（コンテンツディレクター）兵庫県神戸市出身。アシェット婦人画報社（現ハースト婦人画報社）入社後、『婦人画報』、『ELLE グルメ』編集部を経て独立。食とライフスタイルをテーマに、ワインやレストラン、ホテル、ブランドでの執筆やイベント企画等を行う。



「ディレクター オブ コンシェルジュ」の阿部泰年。1997年「パンパシフィックホテル横浜」に入社し、以降は「コンラッド東京」「マンダリンオリエンタル東京」「アマン東京」など、名だたるホテルで経験を積む。世界的なコンシェルジュ組織「レ・クレドール」の正会員でもある。



特徴的なホテル外観。みなとみらいの開発イメージに沿って、美しい波がモチーフにされたという。